

展示室1 小特集：フランク・ブランギン



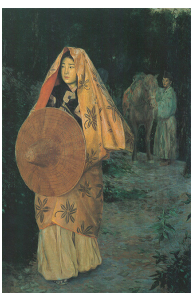
フランク・ブランギン  
《ヴェニス・運河》

ベルギーのブリュージュで生まれ、後にイギリスへ渡ったフランク・ブランギン（1867-1956）は、画家、版画家、装飾家、デザイナーなど多彩な顔を持ったイギリスを代表する芸術家です。ウィリアム・モリス工房でデザインを学び、絵画の道に進んだブランギンは、色彩あふれる画面構成とダイナミックな描写力で、当時のイギリス画壇に新風を吹き込みました。

ブランギンは、日本と関わりが深く、イギリスに留学した画学生との交流や、上野の国立西洋美術館設立の礎となった松方幸次郎の美術コレクションの指南役としても知られています。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
サー・フランク・ブランギン	花園	1899 頃	油彩・板
サー・フランク・ブランギン	ヴェニス・運河	1924	油彩・キャンバス
サー・フランク・ブランギン	馬車		水彩・紙
サー・フランク・ブランギン	市場		エッチング・紙
サー・フランク・ブランギン（画） 漆原木虫（刻）	ブリュージュのフレネ：レイ（運河）		木版・紙
サー・フランク・ブランギン（画） 漆原木虫（刻）	ブリュージュのヤン・ファン・エイク広場の恋人たち		木版・紙
サー・フランク・ブランギン（画） 漆原木虫（刻）	ブリュージュのヤン・ファン・エイク広場		木版・紙
サー・フランク・ブランギン（画） 漆原木虫（刻）	橋、パーナード城		木版・紙
サー・フランク・ブランギン（画） 漆原木虫（刻）	ブリュージュのブレディクヘーレン橋		木版・紙
サー・フランク・ブランギン（画） 漆原木虫（刻）	ブリュージュのポテリエリ		木版・紙
サー・フランク・ブランギン（画） 漆原木虫（刻）	『木版画集』		
	震災後のメツシナ 伊太利		木版・紙
	ヴェニス 金色の朝		木版・紙
	ロザンヌ橋 端西		木版・紙
	運河の船 ブルージ 白耳義		木版・紙
	修道院 ブルージ 白耳義		木版・紙
	ロアール河の古橋		木版・紙
栗原忠二	ヴェニス風景	1921（大正 10）	油彩・板
武内鶴之助	英国風景		油彩・キャンバス
石橋和訓	男性裸像	1907（明治 40）	油彩・キャンバス
【当館名品選】			
トマス・ゲインズボロ	オース夫人の肖像	1767	油彩・キャンバス
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カンバーランド州のコールダー・ブリッジ	1810	油彩・キャンバス

展示室2 日本近代美術と文学性



小林万吾  
《朽葉の袖》

屏風絵や絵巻物に代表されるように、日本においても古くから美術と文学は密接な関係にありました。明治後期、美術界では同時代の文芸思潮と深く関わりながら、日本の歴史や物語などが主題に好まれたり、詩情に重きを置く傾向がみられました。また、明治末に創刊された雑誌『白樺』は、文芸と美術を自由に横断する内容で大きな影響力も持ちました。

今回は、当館の日本の近代美術のコレクションから、文学の世界とさまざまに共演する作品を特集します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
岡村政子	牛若丸	1889 (明治 22)	石版、手彩色・紙
岡村政子	みなつる姫	1889 (明治 22)	石版、手彩色・紙
岡村政子	仙女伏姫幽窟において読経の図	1889 (明治 22)	石版、手彩色・紙
岡村政子	きよひめ	1888 (明治 21)	石版、手彩色・紙
小林万吾	朽葉の袖	1907 (明治 40)	油彩・キャンバス
岸田劉生	『劉生図案画集』(聚英閣)	1921 (大正 10)	木版・紙/ポートフォリオ
南薫造	教会堂		水彩・紙
有島生馬	少女	1908 (明治 41)	油彩・キャンバス
白瀧幾之助	編物をする少女	1895 (明治 28)	油彩・キャンバス
藤島武二	がくの花	1901 (明治 34)	油彩・キャンバス
木村荘八	道のある風景	1914 (大正 3)	油彩・キャンバス
河野通勢	ソロモンの裁判	1919 (大正 8)	インク・紙
谷中安規	鍵 (詩画集の 8)	1933 (昭和 8)	木版・紙
田中恭吉、恩地孝四郎	『月に吠える』	1917 (大正 6)	木版・紙/本
古賀春江	蝸牛のいる田舎	1928 (昭和 3)	油彩・キャンバス
棟方志功	愛染菩薩図 (『雨二モ負ケズ』四韻)		墨、淡彩・紙/4点組
山本芳翠	『蜻蛉集』(ユディット・ゴートイエ著)	1884 (明治 17) 刊	石版・紙/本
竹久夢二	『出帆』	1940 (昭和 15)	木版・紙/本
梶田半古	蝶	1907-12 (明治 40-45) 頃	岩絵具・絹/二曲一隻屏風
荻生天泉	行成郷	1932 (昭和 7)	岩絵具・紙/二曲一双屏風

### 展示室 3 郡山と彫刻



黒沼令《刹那》

市内には駅前や公共施設周辺など、ブロンズのモニュメントが点在しています。大正から昭和戦前期にかけて官展を中心に活躍した木彫家・三木宗策。その門下として長く制作を続ける佐藤静司。また、抽象表現を取り入れた塑造の制作を続けた湖南出身の三坂耿一郎など、これまで郡山出身の彫刻家たちが活躍してきた歴史は、彫刻のある町の風景に大きく影響しているといえるでしょう。

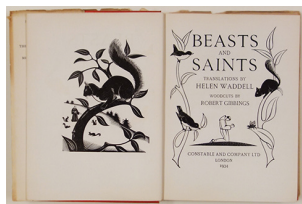
ふだん何気なく通り過ぎている街角で、足を止めてモニュメントを眺める機会はあまりないかもしれません。今回はあらためて、郡山を代表する彫刻家の作品をご覧ください。また、現在、市内で活動している作家・黒沼令の作品を特別出品としてご紹介します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
三木宗策	威容抱慈 (坂上田村麻呂像)	1924 (大正 13)	木彫
三木宗策	大葉子	1942 (昭和 17)	木彫 萩原巖氏寄贈
佐藤静司	獺	1936 (昭和 11)	木彫
佐藤静司	合掌	1986 (昭和 61)	木彫
佐藤静司	閑	1986 (昭和 61)	木彫 佐藤静司氏寄贈
佐藤静司	街の詩	2006 (平成 18)	木彫 佐藤静司氏寄贈
三坂耿一郎	まとう	1967 (昭和 42)	ブロンズ

#### 【特別出品】

黒沼令	物思いⅡ	2016 (平成 28)	木彫 作家蔵
黒沼令	刹那	2019 (令和元)	木彫 作家蔵

## 展示室 4-① 挿絵の魅力



ロバート・ギビングス  
L.ポウイス『野獣と聖者』

西欧での挿絵は、古くは中世ヨーロッパの写本の彩飾にはじまり、19世紀に最も関心が寄せられ、多くの美しい本が生まれました。挿絵の版画技法には、木版、銅版、石版などがありますが、特に18世紀末にイギリスのトマス・ビューイックが創始したとされる木口木版は、精巧な表現が可能であることと、同じ凸版である活版印刷との相性の良さから広く用いられました。

日本でも明治期に西欧の挿絵本がもたらされると、その挿絵を模倣した翻訳本が出版されます。一方で、浮世絵の流れを汲んだ木版画を口絵とする日本独特の本の表現も続いていきます。美しい装幀や挿絵とともに、挿絵本に表れる時代性の面白さもお楽しみください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
トマス・ビューイック	『博物図集』	1809	木口木版・紙/本
トマス・ビューイック	『イソップ寓話集』	1818	木口木版・紙/本
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	S. ロジャース『詩集』	1869	ラインエングレーヴィング・紙/本
バーン=ジョーンズ	W. モリス『クビドとプシュケの物語』	1974	木口木版・紙/本
バーン=ジョーンズ	W. モリス『クビドとプシュケの物語』ブルーフ集より		木口木版・紙
デイヴィッド・ジョーンズ	『ヨナの書』	1926	木口木版・紙/本
デイヴィッド・ジョーンズ	『ヨナの書』のための13点の木口木版画集より	1979	木口木版・紙/ポートフォリオ
ロバート・ギビングス	L.ポウイス『野獣と聖者』		木口木版・紙/本
ロバート・ギビングス	L.ポウイス『野獣と聖者』ブルーフ集より	1934頃	木口木版・紙
村井聴泉ほか	動物図(金港堂書籍 三間石版所)	1896-1900(明治29-33)	石版・紙/本
	『日本重要水産動植物図』(大日本水産会編纂)	1897(明治30)	石版・紙/本
持田鏡男(挿画)	『日本有用 魚介藻類図説』(妹尾秀實・鐘ヶ江東作・東道太郎著)	1910(明治43)	石版・紙/本
	『新訳 魯敏孫漂流記』(英国デフォー氏原著)	1887(明治20)	表紙:石版・紙/本
	『絶世奇談 魯敏孫漂流記』再版(井上勤訳、博聞社発行)	1888(明治21)	亜鉛版・紙/本
	『狐の裁判』(井上勤訳、春陽堂書房)	1886(明治19)	石版・紙/本
	『日の出島』分冊本(村井弦齋・村井寛著、春陽堂書房)	1897-1902(明治30-35)	亜鉛版・紙/本
オーブリー・ピアズリー	おまえの口に口づけしたよ、ヨカーン(オスカー・ワイルド『サロメ』挿絵)	1893	ラインブロック・紙
オーブリー・ピアズリー	『イエロー・ブック』第5巻表紙デザイン	1895	ラインブロック・紙
オーブリー・ピアズリー	トマス・マロリー著『アーサー王の死』分冊本	1893	ラインブロック・紙/本
ロバート・ギビングス	カモメ		木口木版・紙
デイヴィッド・ジョーンズ	『チェスター劇「大洪水」』より	1927	木口木版・紙/ポートフォリオ
エリック・ギル	降架	1931	木口木版・紙
エリック・ギル	磔刑	1931	木口木版・紙
エリック・ギル	『四福音書』	1931	木口木版・紙/本
アグネス・ミラー・パーカー	『イソップ物語』	1931	木口木版・紙/本
ジョージ・グラウド・レオン・アンダーウッド	『動物界』	1926	木口木版・紙/本
グヴェンドレン・メアリー・ラヴェラ	『スコットランドの悪魔』	1934	木口木版・紙/本
チャールズ・フレデリック・タニクリフ	H.E. ベイツ『とても幸せな田舎者』	1943	木口木版・紙/本
チャールズ・フレデリック・タニクリフ	H.E. ベイツ『田園の中心で』	1942	木口木版・紙/本

## 展示室 4-② 暮らしを彩るデザイン



クリストファー・ドレッサー  
『銀製ティー・セット』

私たちは、日々の生活を豊かに彩ってくれるさまざまなデザインに囲まれています。器や道具に本来求められる実用性と、デザインの美しさや味わい深さが調和した作品を展示します。

郡山市出身の佐藤潤四郎は、日本の近代ガラス工芸界を代表する作家です。柔らかな曲線による素朴で温もりある造形からは、彼のガラスへの深い愛情が感じられます。クリストファー・ドレッサーは、スコットランドに生まれ、モダン・デザインの先駆けとなる重要な仕事を残したデザイナーです。1876(明治9)年来日した彼は、各地の美術工芸品を調査し、帰国後彼はその経験を自らのデザインに昇華させます。

何を入れるか、どのように置くかを想像してみるのも楽しみ方のひとつかもしれません。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
佐藤潤四郎	ステンドグラス・仏足跡		ガラス、鉄	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	花器・何をしようか	1986 (昭和 61)	ガラス/宙吹	
佐藤潤四郎	花器・ちょっと考えて (樹)		ガラス/宙吹・グラヴェール	
佐藤潤四郎	花器・穴があいてちょっと考えた	1908-82 (昭和 55-57) 頃	ガラス/宙吹・カット	
佐藤潤四郎	ブルー花器		ガラス/宙吹	
佐藤潤四郎	瓶・ガラスの神様		ガラス/宙吹・グラヴェール、プランツ	
佐藤潤四郎	植物文瓶		ガラス/宙吹・グラヴェール	
佐藤潤四郎	オブジェ・魚拓	1972 (昭和 47) 頃	ガラス/宙吹・カレット封入	
佐藤潤四郎	オブジェ・魚拓	1972 (昭和 47) 頃	ガラス/宙吹	
佐藤潤四郎	大杯・ガラスを吹く人	1986 (昭和 61)	ガラス/宙吹・グラヴェール、プランツ	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	ルーマー杯 (グリーン)		ガラス/宙吹・プランツ、雲母封入	石川和子氏・長谷川貴子氏寄贈
佐藤潤四郎	ルーマー杯・大好きな形		ガラス/宙吹・プランツ	
佐藤潤四郎	ルーマー杯・なみなみのワインを		ガラス/宙吹・グラヴェール、プランツ	
佐藤潤四郎	鍛鉄吹込花器・灯もつけて	1986 (昭和 61)	ガラス、鉄/鍛鉄吹込	
佐藤潤四郎	鍛鉄吹込花器 (顔)	1986 (昭和 61)	ガラス、鉄/鍛鉄吹込	
クリストファー・ドレッサー	クラレットジャグ (ぶどう酒用容器)		ガラス、金属、電気メッキ	
クリストファー・ドレッサー	スプーン・ウォーマー		金属、電気メッキ	
クリストファー・ドレッサー	トースト・ラック (ポイントアーチ型)		金属、電気メッキ	
クリストファー・ドレッサー	トースト・ラック (楕円型)		金属、電気メッキ	
クリストファー・ドレッサー	トースト・ラック (青海波)		金属、電気メッキ	
クリストファー・ドレッサー	銀製ティー・セット	1885	銀、象牙、金メッキ	
クリストファー・ドレッサー	ミルク入れ	1880	金属、電気メッキ	
クリストファー・ドレッサー	シュガー・バスケット (穴あきふるい付き)	1884	金属、銀メッキ	
クリストファー・ドレッサー	ナイフとフォークのセット		金属、電気メッキ	
クリストファー・ドレッサー	色絵草花文隅切角皿	1886	陶器	
クリストファー・ドレッサー	色絵花模様隅切角皿	1886	陶器	
クリストファー・ドレッサー	色絵花模様長皿	1886	陶器	
クリストファー・ドレッサー	青釉水差		陶器	
クリストファー・ドレッサー	水差し「ラクダの背」	1879-82 頃	陶器	
クリストファー・ドレッサー	うに形容器	1879-82 頃	陶器	
バーナード・リーチ	白磁魚絵皿	1961	磁器	
バーナード・リーチ	鉄絵碗		陶器	
浜田庄司	黒釉錆流描角皿		陶器	麻山富義氏寄贈
浜田庄司	白釉鉄絵茶碗		ストーンウェア	
浜田庄司	鉛釉花打茶碗		陶器	

## ロビー展示 彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
● 1階				
笠置季男	躍進	1958 (昭和 33)	セメント	
アントニー・ゴームリー	量子雲 XXIII	2000	ステンレス・スチール棒	
アントニー・ゴームリー	領域 XIII	2000	ステンレス・スチール棒	
● 2階展示ロビー				
舟越保武	少女	1956 (昭和 31)	砂岩	
柳原義達	女の首	1958 (昭和 33)	ブロンズ	
細川宗英	道元	1988 (昭和 63)	ブロンズ	
堀内正和	顔	1955 (昭和 30)	鉄、セメント	
● 前庭				
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ	